



文化財マップ

下田・城島校区の文化財

■下田・城島校区の文化財■

城島町は広大な筑紫平野西部に位置しています。久留米市域西端を占め、北から南西には筑後川が流れ、有明海へ注ぎます。町の大部分は標高4m程度で、筑後川の沖積作用によって形成された広大な干潟の湿原地にあたります。地理的要因から往時の海岸線を推測すると、縄文時代以前の文化財の存在についてはあまりありませんが、弥生時代以降、特に中世・近世の文化財は多く残っています。

この地に人々が移り住むようになったのは、今から2000年程度前のことです。櫛津に所在する久保遺跡では、発掘調査を実施した結果、弥生時代・古墳時代・中世の集落跡であったことが明らかとなりました。また、内野遺跡・小柳遺跡では弥生土器や土師器が採集され、弥生時代以降に人々の生活が営まれていたのではないかと推測されています。

平安時代になると、豊島真人時運という人物が大依に土着し、延喜年間(901～922年)にその子時祐が河中の島に移って館を築き、城島太郎時祐と名乗ったそうです。これが「城島」の地名の由来となりました。城島は、平安時代の終わりごろから三瀧荘という荘園に含まれ、史料に「大依村」「葦塚村」などの村を確認することができます。この他にも、中世には内野・小柳・櫛津・高津などの村も成立していたようで、草原が広がる内野、舟が出入りをする高津、植物が茂った櫛津と小柳、墓のある葦塚などその地名から往時の様子を窺えます。

応仁の乱が終わると、時代は戦国時代と呼ばれる争乱の時代に突入しました。筑後地方・城島も例外ではなく、少弐・大内・大友また島津・龍造寺など大名の勢力争いのもとにありました。その渦中にあったのが下田城で、永禄7年(1564)には大友義鎮は自ら高良山に陣して、同城を攻め立てました。奮戦むなしく城主堤貞元は大友に下ったと伝わります。また、同時代の城である城島城は、城島小学校敷地内に「本丸」の小字名が残り、ここが当時の城域と考えられます。現在も小学校南側には堀割が残っています。

戦乱の世が終わって江戸時代を迎えると、農業とともに酒や瓦・和傘をはじめさまざまな産業が発達しました。この時代には指定文化財である城島天満宮の石造鳥居、浜天満宮の石造狛犬や葦塚の石造阿彌陀如来坐像をはじめ、多くの石造物や塚が良く残り、今も町並みの一端を形成しています。

城島町は低地であるがゆえに、洪水など自然災害が発生しやすいところでした。しかし、温暖な気候・肥えた土壌・豊富な水に恵まれた環境が、人々の生活を支え、さまざまな産業を興し、文化を育んできました。そして現在、下田・城島校区に残る多くの文化財は未来に伝えるべき貴重な財産となっています。

下田・城島校区
の文化財マップ
平成23年3月31日
発行：久留米市
編集：文化観光部文化財保護課

《文化財に関するお問い合わせ先》
久留米市文化観光部 文化財保護課
久留米市城南町15番地3(市役所16階)
E-mail: bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp
0942-30-9225 FAX.0942-30-9718
久留米市理蔵文化財センター
久留米市諏訪野町1830-6(えびの七敷地内)
0942-34-4995 FAX.0942-34-5045
(表紙)久保遺跡出土土器



久留米市理蔵文化財センターのご案内

市内の遺跡から出土した土器や石器・金属器などの
遺物をはじめ、発掘調査や整理作業の際に作成した図
面・写真などの記録類を収蔵・整理・研究するための施
設です。
当センターでは、資料の貸し出しや閲覧、文化財に
関するご相談にも応じています。また、毎年秋には「考
古資料展」を開催し、収蔵資料の公開を行っています。
ふるさとの歴史に関心をお持ちの皆さん、ぜひお参
りください。お待ちしております。

開館時間：午前9時～午後5時
休館日：土日・祝祭日・年末年始
入館料：無料

■こんなにあるぞ!! 下田・城島校区の文化財■

No.	遺跡の名前	遺跡の時代	こんな遺跡です
1	導善板碑	室町時代	応安2年(1369)銘のある、地藏板碑です。
3	宮ノ脇板碑群	中世	観音堂横の覆屋内に肥前様式の板碑13基が安置されています。
4	宮ノ脇遺跡	南北朝時代	土師器などが多数散布しています。南北朝時代の頃のものです。
5	堤貞元墓	江戸時代	文政5年(1822)に建立された堤豊後守貞元のお墓です。下田城を築いた貞正から5代目にあたります。
6	下田城跡	戦国時代	南北80間、東西60間の城跡で、現在、下田天満宮境内にあたります。堤貞正入道妙光が寛正3年(1462)に築城しました。
8	番所跡	江戸時代	遠見番所を設け、他国船の出入りを監視し、報告させていた施設です。
9	船端・高札場跡	江戸時代	かつての船着場で、御触を書いた高札を揚げた場所です。
10	祀板碑	江戸時代	天正年間、龍造寺氏と対立した蒲池氏が、東蔵寺という小庵を建立した際、参道に建てたといわれています。
11	内野遺跡	弥生時代	弥生土器などが多数散布しています。
13	城島城跡	安土・桃山時代	城島天満宮境内にあたり、石垣・内堀が現存しています。城島城は天正9年(1581)、西牟田家周が築城したと伝わっています。
14	城内・浦田遺跡	中世	土師器・陶磁器が散布しています。
15	ハッ手条里	江戸時代	小字から推測した地割の跡です。現在ではほ場整備などで名残を残すものはありません。
16	大依寺の脇遺跡	弥生時代	弥生土器が散布しています。城島警察署付近には貝塚があったとの話もあり、周辺には牡蠣殻も散布しています。
17	六町原一里塚	江戸時代	久留米城下町札の辻を基点として設けられていましたが、現在は道路の拡張によりその姿はありません。